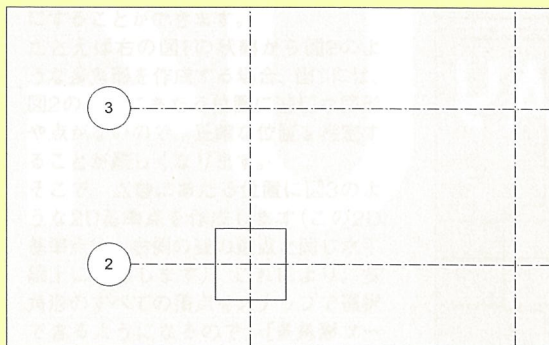


04-01 通り芯符号を作成する

BL_MARK_TEST.vwx (完成版: BL_MARK_TEST_after.vwx)

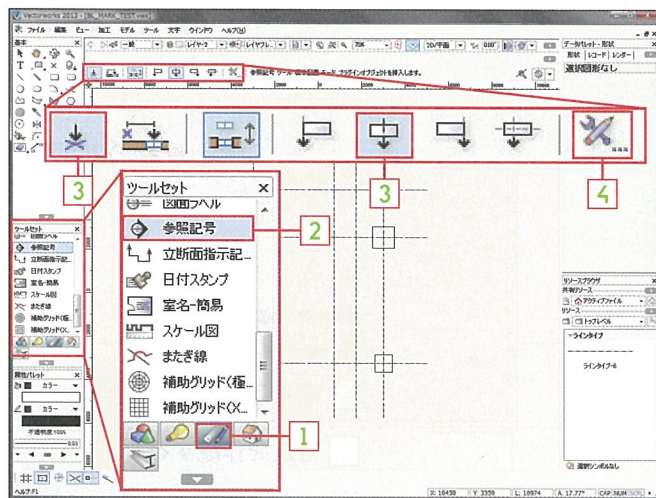


Vectorworks 2013 Fundamentalsシリーズで通り芯符号を作成するには、ツールセットパレットの[寸法/注釈]ツールセットの[参照記号ツール]を使用します。作成する通り芯符号の形式は[プロパティ]ダイアログで指定できます。

なお、Vectorworks 2013 デザインシリーズでは、[通り芯記号ツール]を使用できます(P.127を参照)。

番号の通り芯符号を作成する

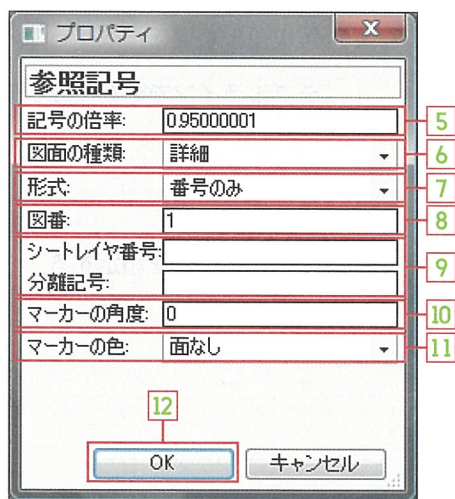
- 1 ツールセットパレットの[寸法/注釈]をクリックする。
- 2 [参照記号ツール]をクリックする。
- 3 ツールバーの[標準配置モード]と[オブジェクト挿入点を中央モード]をクリックする。
- 4 ツールバーの[ツール設定]をクリックする。[プロパティ]ダイアログが開く。



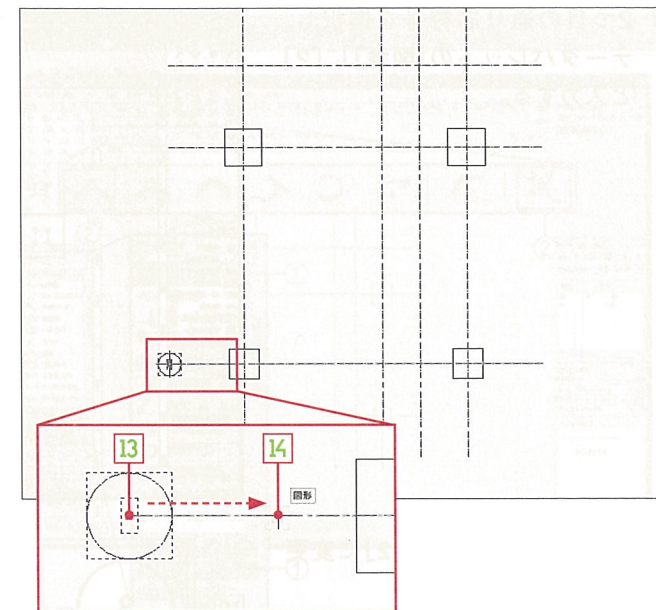
- 5 [記号の倍率]に「0.95」と入力する。

ここでは、わかりやすいように大きいサイズを指定しています。実際の製図では、図面の仕様に合ったサイズを指定してください。

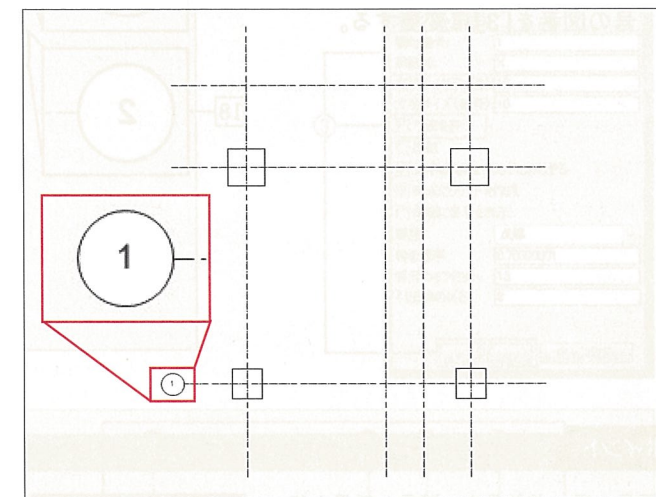
- 6 [図面の種類]から[詳細]を選択する。
- 7 [形式]から[番号のみ]を選択する。
- 8 [図番]に「1」と入力する。
- 9 [シートレイヤ番号]と[分離記号]を空白にする。
- 10 [マーカーの角度]に「0」と入力する。
- 11 [マーカーの色]から[面なし]を選択する。
- 12 [OK]をクリックする。



- 13 一番下の通り芯の端点をクリックする。
- 14 マウスを水平右方向に移動し、通り芯上の任意の点をクリックする。

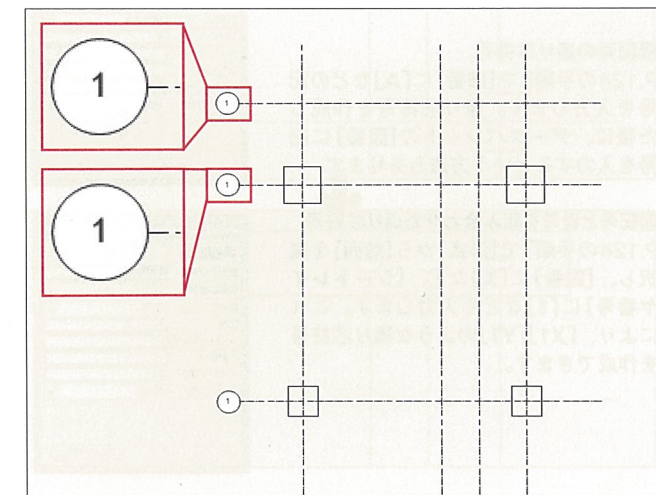


- 15 「1」の通り芯符号が配置される。



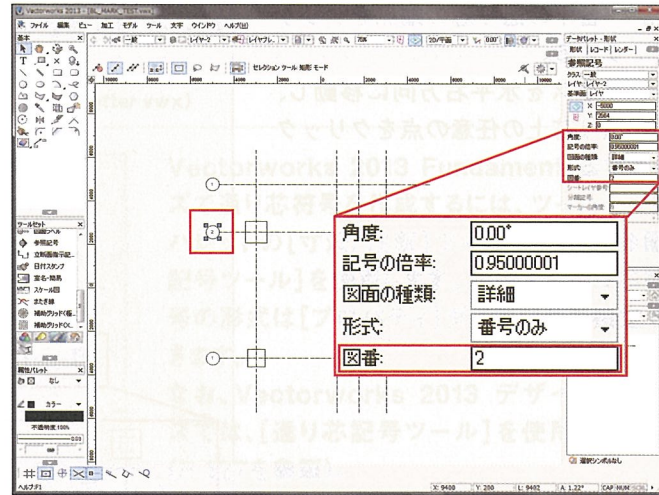
- 16 同様にして、残りの2つの通り芯にも通り芯符号を配置する。

この時点では、すべて「1」の通り芯符号が配置されます。通り芯符号を配置した後に、番号を編集する必要があります。



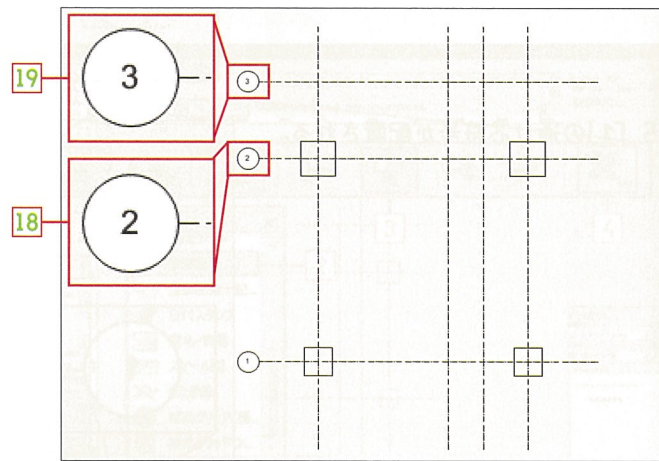
(続く)

17 2つ目の通り芯符号を選択し、データパレットの【図番】に「2」と入力する。



18 通り芯符号の番号が「2」に変更される。

19 同様にして、3つ目の通り芯符号の図番を「3」に変更する。

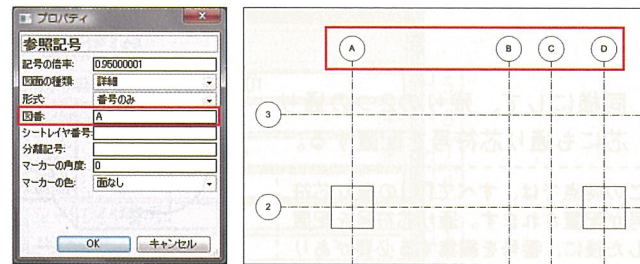


ポイント 記号または記号と番号を組み合わせた通り芯符号

記号の通り芯符号や、記号と番号を組み合わせた通り芯符号を作成することもできます。

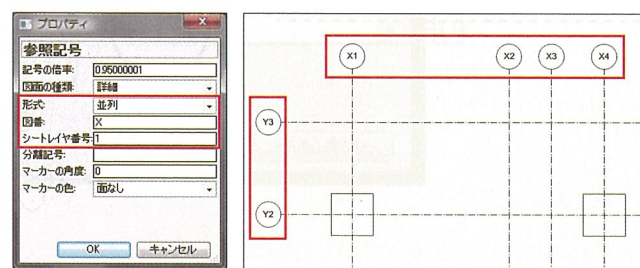
■記号の通り芯符号

P.124の手順8で【図番】に「A」などの記号を入力します。通り芯符号を作成した後に、データパレットの【図番】に記号を入力するという方法もあります。



■記号と番号を組み合わせた通り芯符号

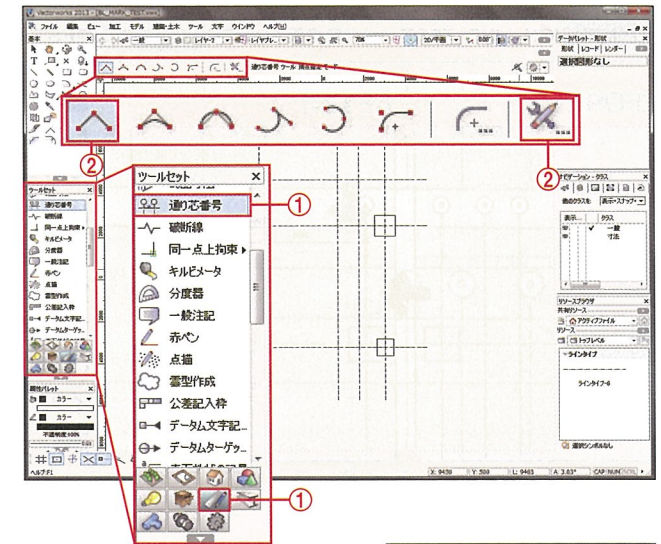
P.124の手順7で【形式】から【並列】を選択し、【図番】に「X」など、【シートレイヤ番号】に「1」などを入力します。これにより、「X1」「Y1」のような通り芯符号を作成できます。



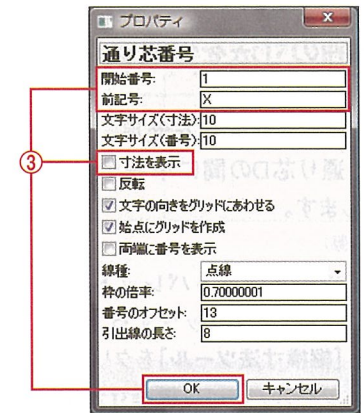
ポイント 【通り芯番号ツール】(Vectorworks 2013デザインシリーズ)

Vectorworks 2013デザインシリーズでは、ツールセットパレットの【寸法/注釈】の【通り芯番号ツール】ツールを使用して、連番の通り芯符号を簡単に作成できます。たとえば次の手順では、前記号を「X」とする連番の通り芯符号を作成しています(図はいずれもVectorworks 2013デザインシリーズの画面です)。

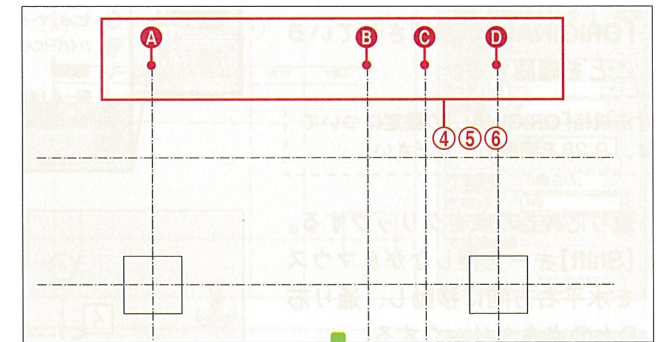
- ① ツールセットパレットの【寸法/注釈】をクリックし、【通り芯番号ツール】をクリックする。
- ② ツールバーの【頂点指定モード】を選択し、【ツール設定】をクリックする。



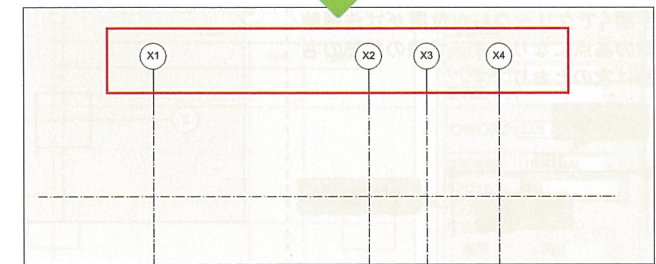
- ③ 【プロパティ】ダイアログで次の設定をする。
 - ・【開始番号】に「1」と入力。
 - ・【前記号】に「X」と入力。
 - ・【寸法を表示】のチェックを外す。
 - ・【OK】をクリック。



- ④ 一番端にある通り芯の端点Aをクリックする。
- ⑤ 同様にして、X方向のすべての通り芯の端点B、C、Dをクリックする。
- ⑥ 最後の通り芯の端点Dをダブルクリックすると、連番の通り芯符号が作成される。



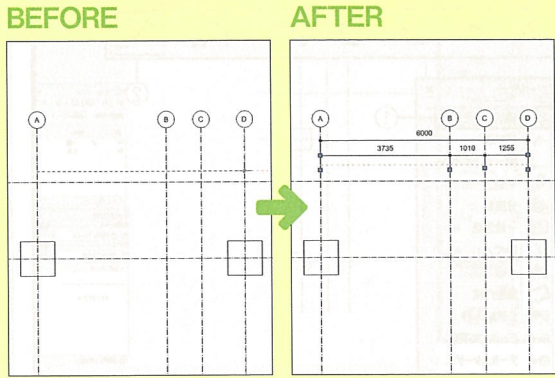
【プロパティ】ダイアログの【文字サイズ】、【線種】、【線の倍率】などは、目的に応じて適切な値に設定してください。【寸法を表示】にチェックを入れていると、通り芯符号と同時に寸法が作成されます。



アルファベットを連続して入力したい場合は、【開始番号】にアルファベットを入力します。

4-02 寸法を作成する

DIMENSION_LINE_TEST.vmx (完成版: DIMENSION_LINE_TEST_after.vwx)

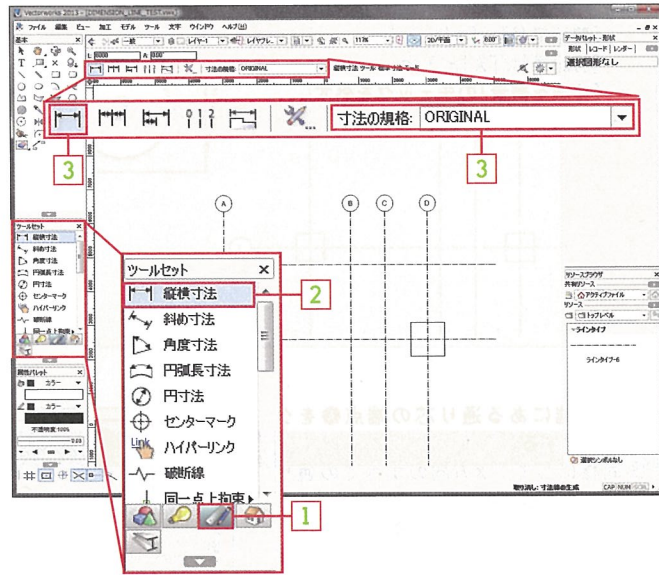


縦横の寸法を作成するには、ツールセットパレットの[寸法/注釈]ツールセットの[縦横寸法ツール]を使用します。[縦横寸法ツール]にはいくつかの作成モードがあり、単独の寸法線や連続した寸法を作成できます。寸法のスタイルは寸法規格によって決まります。初期設定以外の寸法規格を使用する場合は、新しい寸法規格を作成するか、他のファイルから寸法規格を取り込みます(P.30を参照)。

単独の寸法を作成する

[標準寸法モード]を使用して、通り芯Aと通り芯Dの間に単独の寸法を作成します。

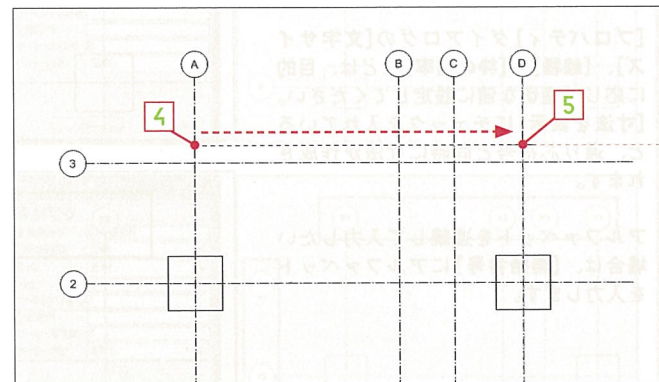
- 1 ツールセットパレットの[寸法/注釈]をクリックする。
- 2 [縦横寸法ツール]をクリックする。
- 3 ツールバーの[標準寸法モード]をクリックし、[寸法の規格]で「ORIGINAL」が選択されていることを確認する。



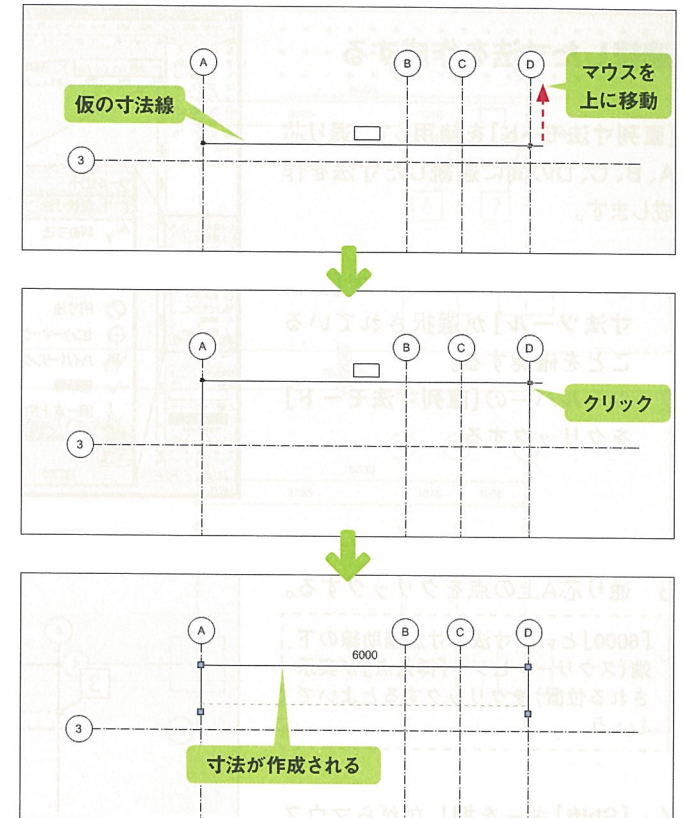
寸法規格「ORIGINAL」の設定については、P.28を参照してください。

- 4 通り芯A上の点をクリックする。
- 5 [Shift]キーを押しながらマウスを水平右方向に移動し、通り芯D上の点をクリックする。

手順4でクリックした位置が寸法補助線の基点になります。寸法の各部の名称は次のとおりです。



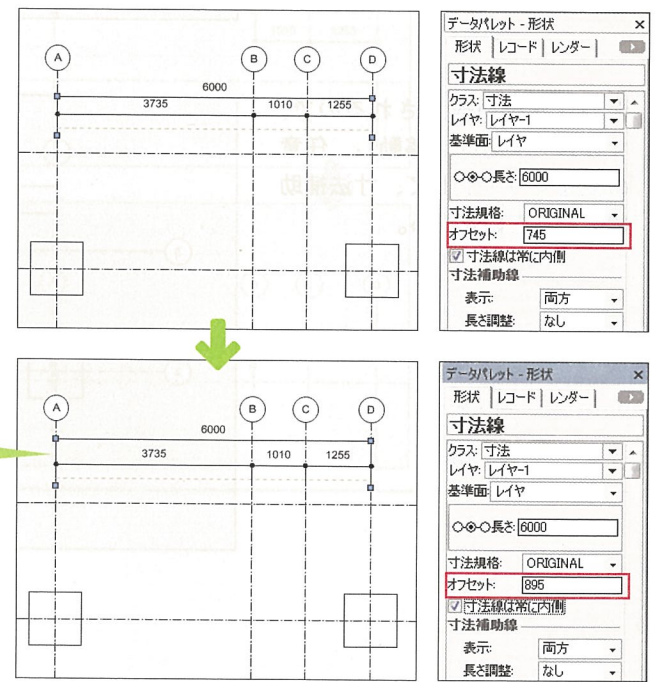
- 6 仮の寸法線が表示される。マウスを上方向に移動すると寸法補助線が伸びるので、任意の点をクリックして寸法補助線の長さを確定する。



(続く)

ポイント 寸法補助線の長さの修正

作成した寸法補助線の長さを後から修正するには、寸法を選択し、データパレットの[オフセット]に値を入力します。右の図では、「6000」の寸法の[オフセット]の値を「745」から「895」に変更して、寸法補助線を伸ばしています。その他にも、データパレットを使用して、寸法規格の切り替え、寸法線と寸法値との間隔の調整などができます。詳しくはVectorworksのヘルプを参照してください。

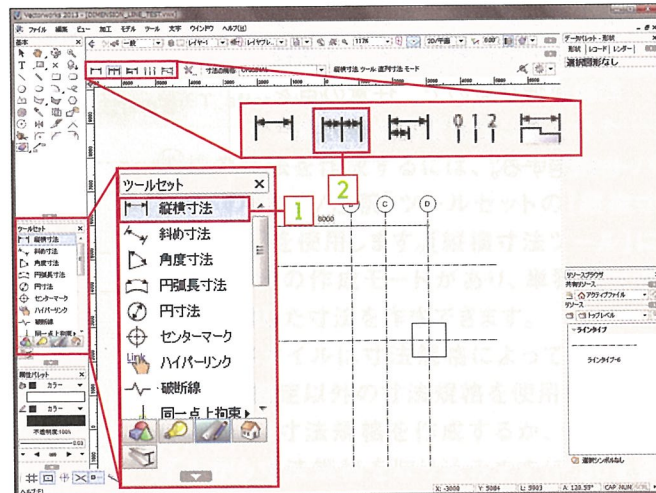


寸法補助線が伸びる

連続した寸法を作成する

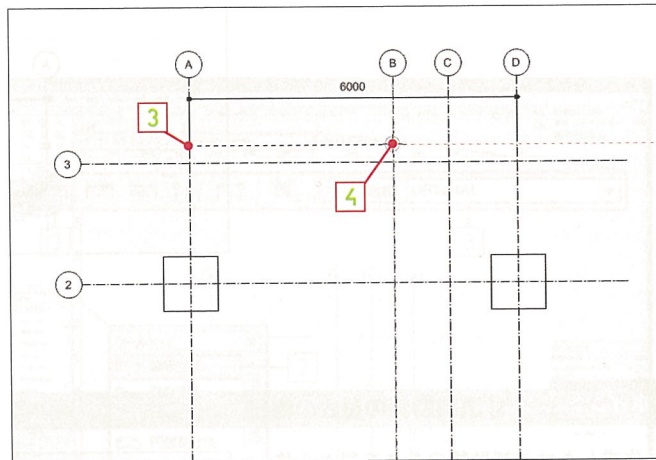
[直列寸法モード]を使用して、通り芯A、B、C、Dの間に連続した寸法を作成します。

- 1 ツールセットパレットで[縦横寸法ツール]が選択されていることを確認する。
- 2 ツールバーの[直列寸法モード]をクリックする。

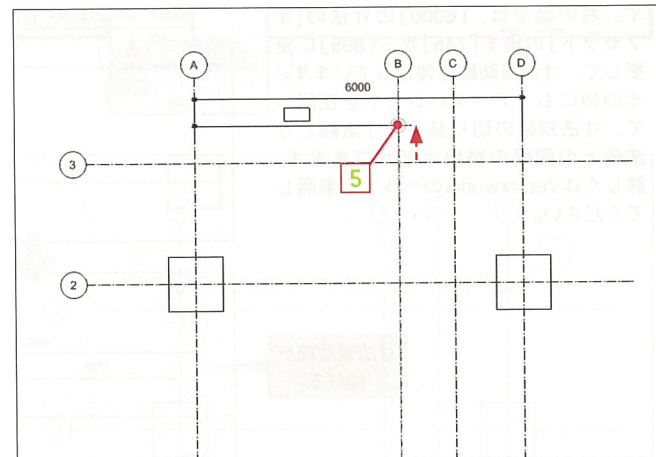


- 3 通り芯A上の点をクリックする。

[6000]という寸法の寸法補助線の下端(スクリーンヒント「挿入点」が表示される位置)をクリックするとよいでしょう。



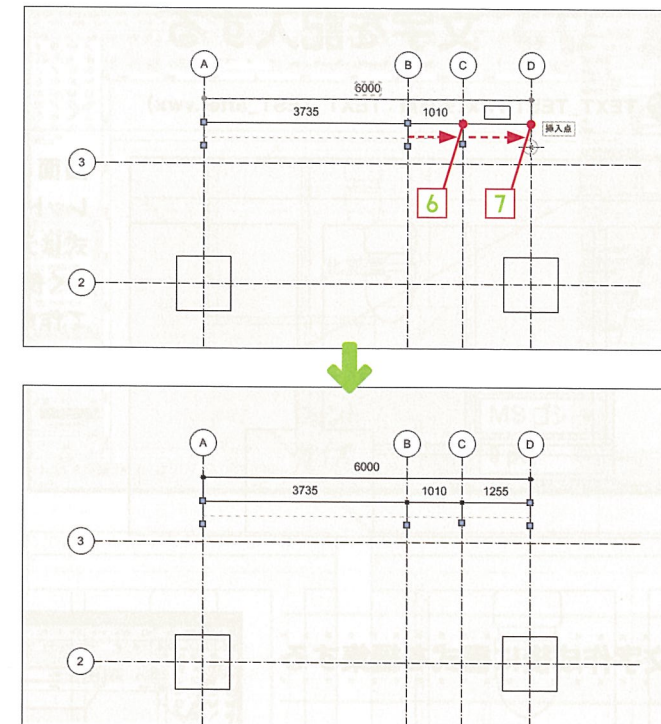
- 4 [Shift]キーを押しながらマウスを水平右方向に移動し、通り芯B上の点をクリックする。



- 5 仮の寸法線が表示されるので、マウスを上方向に移動し、任意の点をクリックして、寸法補助線の長さを確定する。

- 6 [Shift]キーを押しながらマウスを水平右方向に移動し、通り芯C上の点をクリックする。
- 7 [Shift]キーを押しながらマウスを水平右方向に移動し、通り芯D上の点をダブルクリックする。[直列寸法モード]が終了して、連続した寸法が作成される。

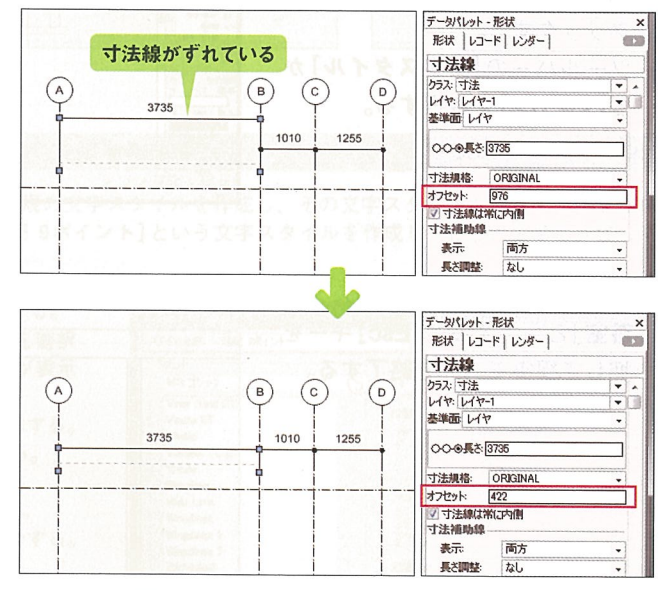
[直列寸法モード]を使用しているため、直前に作成した寸法の位置に合わせて自動的に配置されます。寸法補助線の長さを毎回指定する必要はありません。



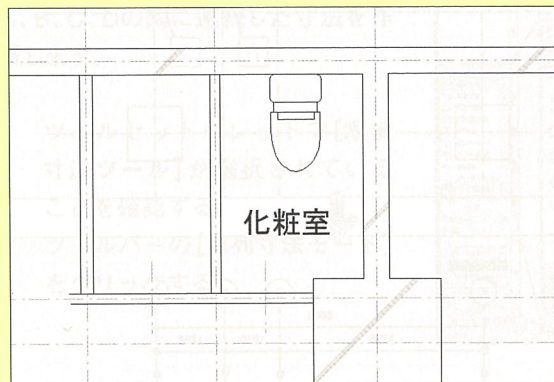
ポイント ずれている寸法線の位置を合わせる

[縦横寸法ツール]の[直列寸法モード]を使用せずに個別に寸法を作成した場合に、寸法線の位置がずれてしまうことがあります。寸法線の位置を合わせるには、各寸法のデータパレットの[オフセット]の値を揃えます。ただし、この方法が有効なのは、寸法補助線の基点(寸法の作成時に最初にクリックした点)の位置が揃っている場合に限られます。

右の例では、「3735」の寸法の寸法補助線が長すぎます。この寸法の[オフセット]は「976」で、他の寸法の[オフセット]は「422」なので、「3735」の寸法の[オフセット]を「422」にすれば、寸法線の位置が揃います。



TEXT_TEST.vwx (完成版: TEXT_TEST_after.vwx)

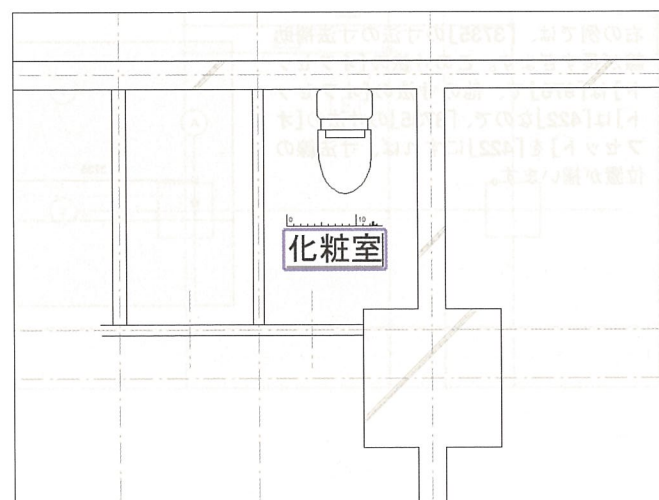
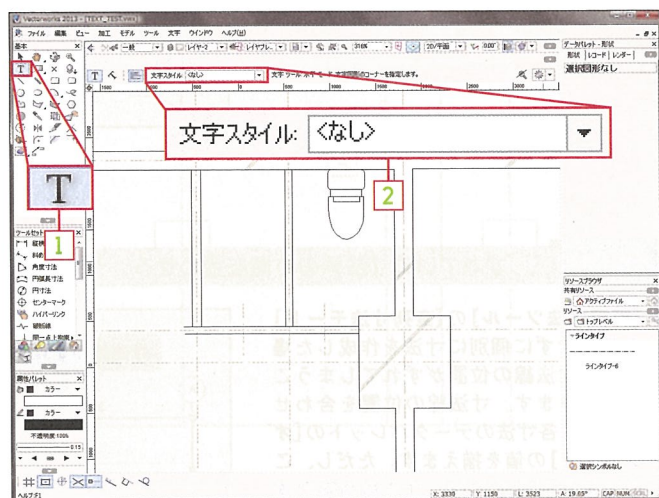


図面に文字情報を記入するときは、基本パレットの[文字ツール]を使用します。文字の書式はデータパレットで編集できます。よく使用する書式は、独自の文字スタイルとして作成しておく、繰り返し使用できるので便利です(P.133のポイントを参照)。

文字作成後に書式を編集する

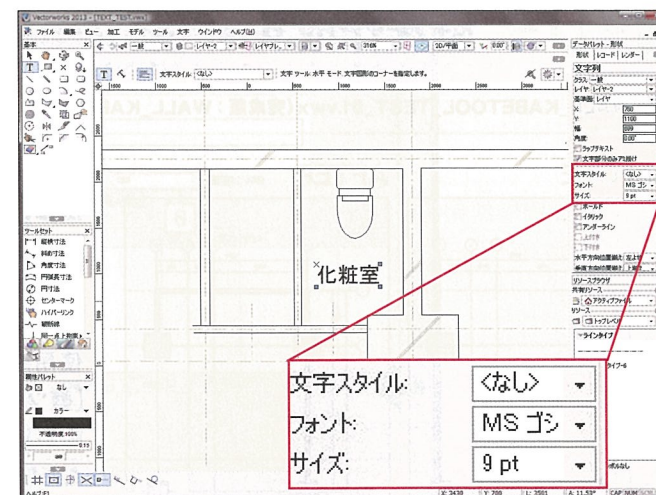
「化粧室」という文字を標準の文字スタイルで記入した後に、フォントと文字サイズを変更します。

- 1 基本パレットの[文字ツール]をクリックする。
- 2 ツールバーの[文字スタイル]から[<なし>]を選択する。
- 3 化粧室の内部をクリックし、「化粧室」と入力する。[Esc]キーを押して編集モードを終了する。

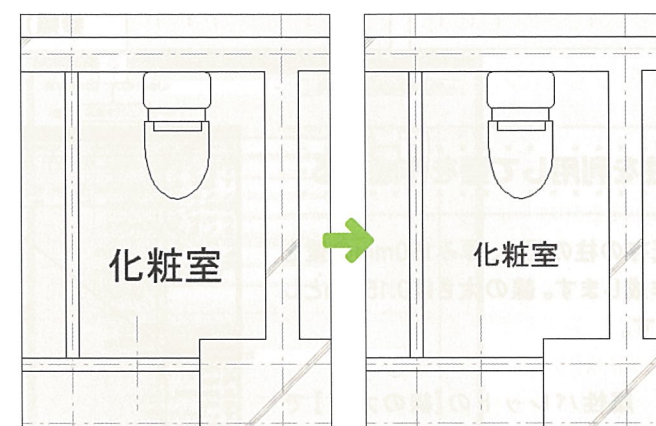


- 4 作成した文字を選択した状態で、データパレットの[フォント]から[MSゴシック]、[サイズ]から[9pt]を選択する。

Macintoshの場合は、適宜異なるフォントを選択してください。必要に応じて、フォントスタイル、位置揃え、色なども変更できます。



- 5 文字の書式が変更される。

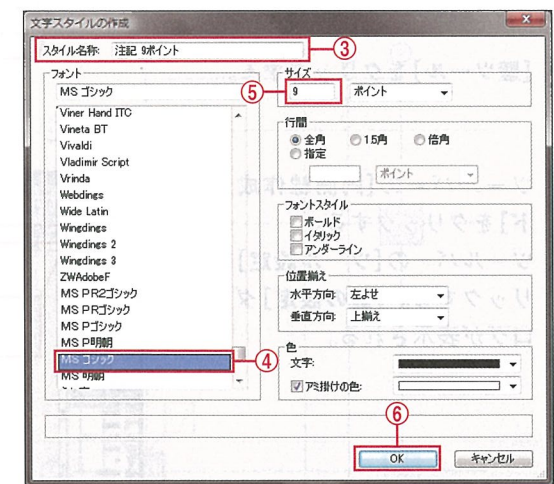


ポイント 文字スタイルを新規作成して文字を作成する

文字の書式を後から編集する代わりに、新規の文字スタイルを作成し、その文字スタイルを使って文字を作成することができます。次の手順では、[注記 9ポイント]という文字スタイルを作成してから、文字を作成しています。

- ① 基本パレットの[文字ツール]をクリックする。
- ② ツールバーの[文字スタイル]から[新規]を選択する。[文字スタイルの作成]ダイアログが表示される。
- ③ [スタイル名称]に[注記 9ポイント]と入力する。
- ④ [フォント]から任意のフォントを選択する。
- ⑤ [サイズ]に[9]と入力する。
- ⑥ [OK]をクリックし、ダイアログを閉じる。
- ⑦ 文字の挿入位置をクリックし、文字を入力する。[Esc]キーを押して編集モードを終了する。

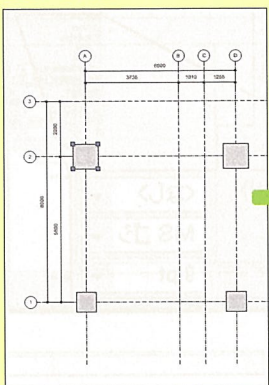
作成した文字スタイルは図面ファイルに保存され、以降はツールバーの[文字スタイル]から選択して使用できます。作成した文字スタイルの設定を編集するには、メニューバーから[文字]—[文字設定]を選択し、[文字設定]ダイアログで設定を変更します。



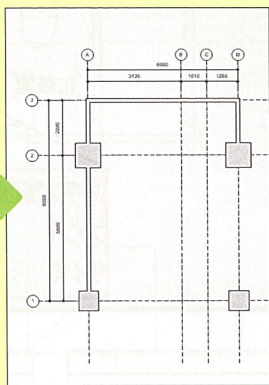
04-04 壁を作成する(壁ツール)

WALL_KABETOOL_TEST_01.vwx(完成版:WALL_KABETOOL_TEST_01_after.vwx)

BEFORE



AFTER



Vectorworksで壁を作成する最も手軽な方法は、ツールセットパレットの[壁ツール]を使用することです。[壁ツール]で作成する壁は、Vectorworks独自のオブジェクトで、厳密には3D形状ですが、2D図面を作成するときにも使用できます。

[壁ツール]のメリットは、線や面を個別に作成/調整しなくても簡単に壁を作成できることです。ただし、壁の線を細かく調整したい場合などは、基本パレットの[ダブルラインツール](P.142を参照)を使用したほうがよいこともあります。

柱を利用して壁を作成する

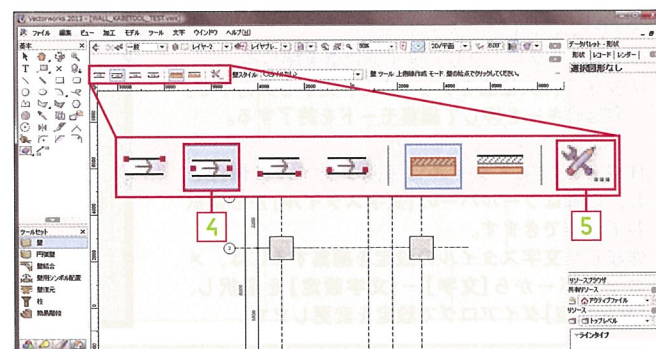
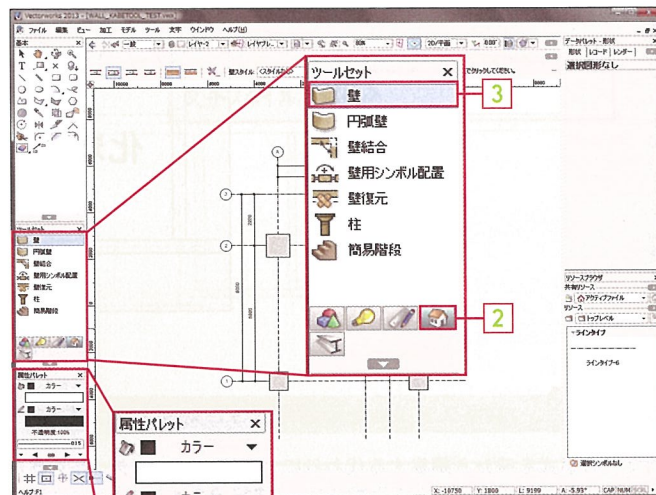
既存の柱の間に、厚み150mmの壁を作成します。線の太さは0.15mmとします。

- 1 属性パレットの[線の太さ]で[0.15]が選択されていることを確認する。
- 2 ツールセットパレットの[壁]をクリックする。

Vectorworksデザインシリーズでは、[壁]ではなく[建物]という名称になります。

- 3 [壁ツール]をクリックする。

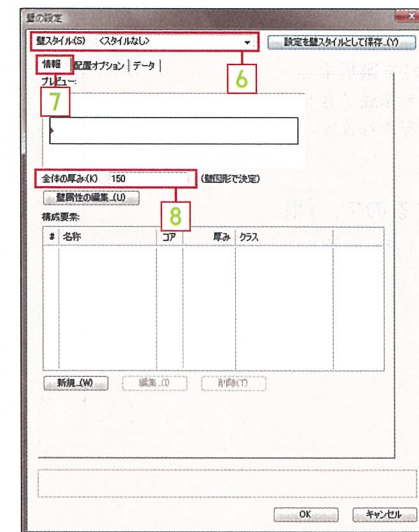
- 4 ツールバーの[両側線作成モード]をクリックする。
- 5 ツールバーの[ツール設定]をクリックする。[壁の設定]ダイアログが表示される。



- 6 [壁スタイル]から[<スタイルなし>]を選択する。

[<スタイルなし>]を選択すると、仕上げ線のない単純な壁になります。

- 7 [情報]タブをクリックする。
- 8 [全体の厚み]に「150」と入力する。

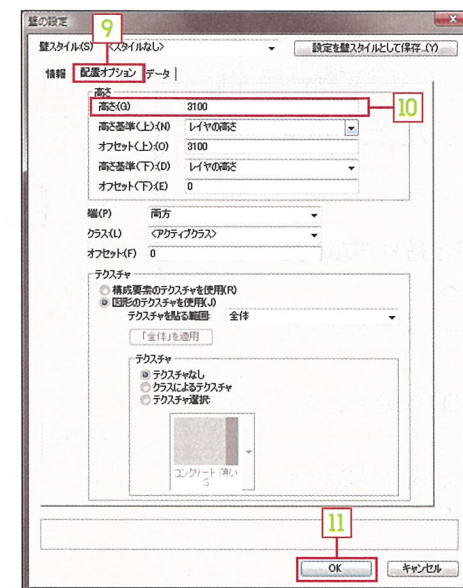


- 9 [配置オプション]タブをクリックする。

- 10 [高さ]に「3100」と入力する。

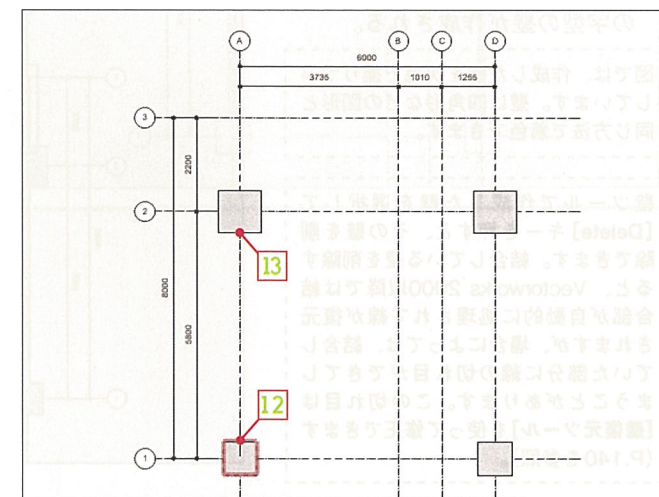
ここでは、練習用ファイルにあらかじめ用意されている柱の高さ(3100mm)に合わせて、壁の高さを設定しています。

- 11 [OK]をクリックする。



- 12 左下の柱の上辺と通り芯Aの交点にカーソルを合わせる。柱が強調表示されるので、クリックして選択する。

- 13 左上の柱の下辺と通り芯Aの交点にカーソルを合わせる。柱が強調表示されるので、クリックして選択する。

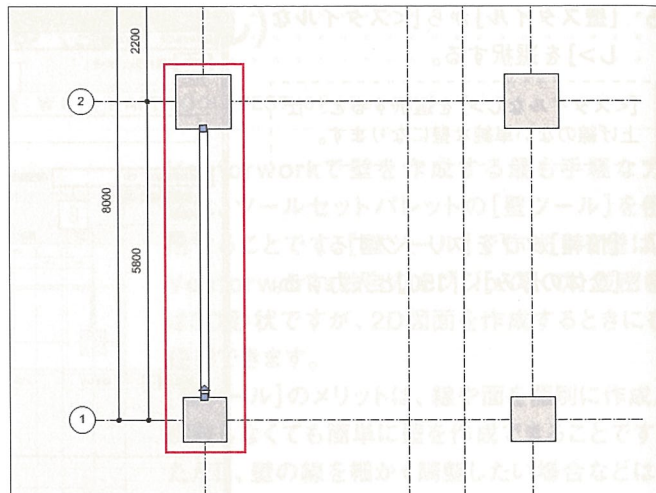


(続く)

14 柱の間に壁が作成される。

【壁ツール】では、2つの柱を選択することで、柱と柱の間に壁を作成できます。柱と壁は自動的に結合されます。

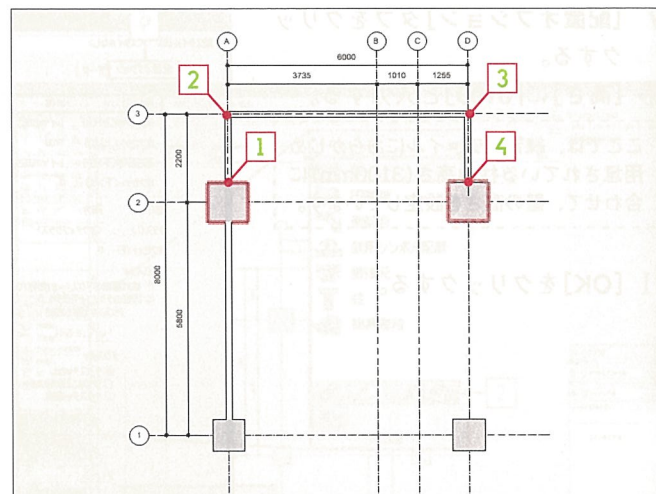
続けて他の壁も作成するので、【壁ツール】はまだ終了しないでください。



点をクリックして壁を作成する

通り芯の交点をクリックして、コの字型の壁を作成します。

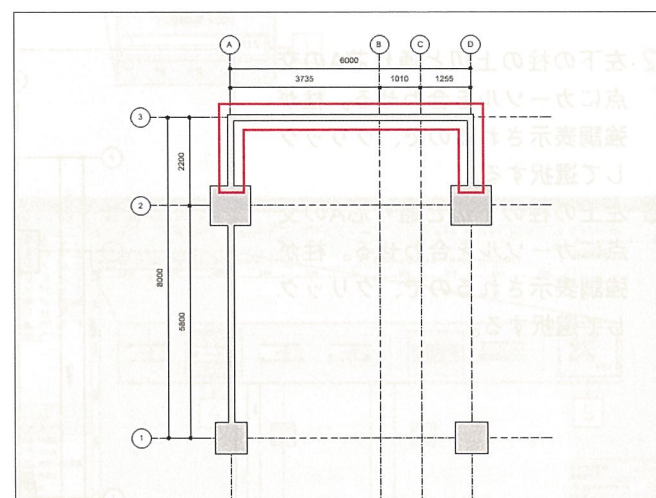
- 1 左上の柱の上辺と通り芯Aの交点をクリックする。
- 2 通り芯3と通り芯Aの交点をクリックする。
- 3 通り芯3と通り芯Dの交点をクリックする。
- 4 右上の柱の上辺と通り芯Dの交点をクリックする。



- 5 クリックした柱と交点を結ぶコの字型の壁が作成される。

図では、作成した壁を灰色で塗りつぶしています。壁は四角形などの図形と同じ方法で着色できます。

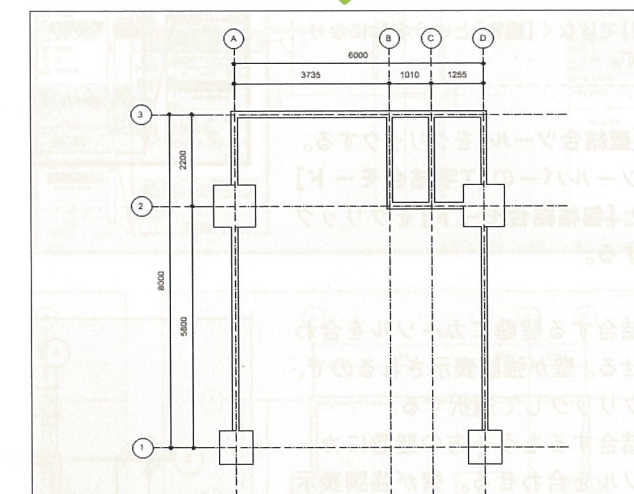
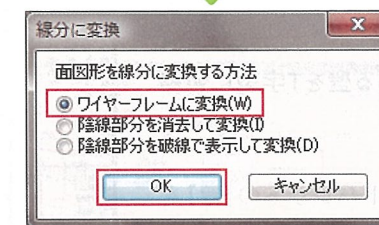
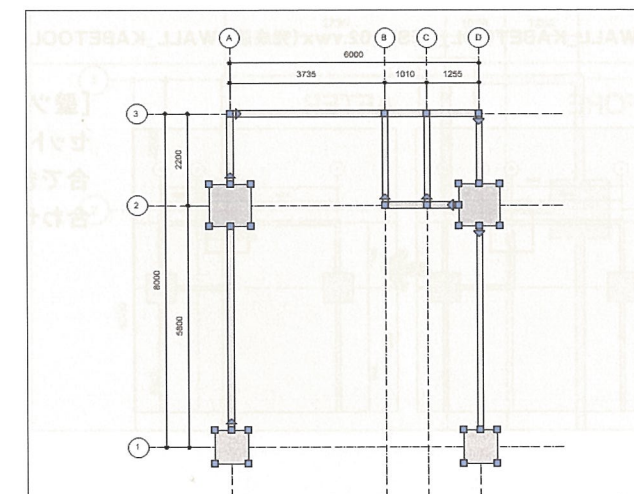
壁ツールで作成した壁を選択して【Delete】キーを押すと、その壁を削除できます。結合している壁を削除すると、Vectorworks 2000以降では結合部が自動的に処理されて線が復元されますが、場合によっては、結合していた部分に線の切れ目ができてしまうことがあります。この切れ目は【壁復元ツール】を使って修正できます(P.140を参照)。



ポイント 壁を線に変換する

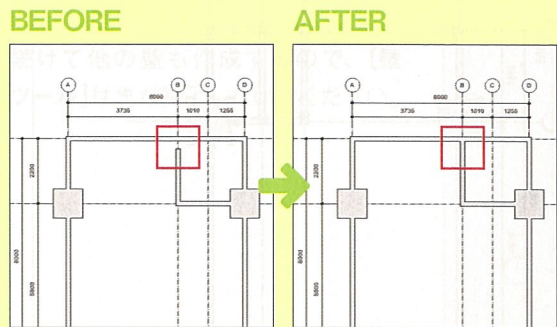
【壁ツール】で作成した壁はVectorworks独自のオブジェクトなので、他のCADアプリケーションで読み込んだ場合などに図面が乱れるおそれがあります。このような問題を避けるには、【壁ツール】で作成した壁を線に変換します。壁を線に変換すると、個々の線を細かく編集しやすくなるという利点もあります。壁を線に変換するには、次のようになります。

- ① 線に変換したい壁や柱をすべて選択する。
- ② メニューバーから【加工】-【変換】-【線分に変換】を選択する。
- ③ 【線分に変換】ダイアログで【ワイヤフレームに変換】を選択し、【OK】をクリックする。



04-05 壁を結合する(壁結合ツール)

WALL_KABETOOL_TEST_02.vwx (完成版: WALL_KABETOOL_TEST_02_after.vwx)



[壁ツール]で作成した壁同士ならば、ツールセットパレットの[壁結合ツール]を使用して結合できます。壁を包絡結合にすることも、突き合わせ結合にすることもできます。

壁を包絡結合する

離れた位置にある壁をT字型に包絡結合します。

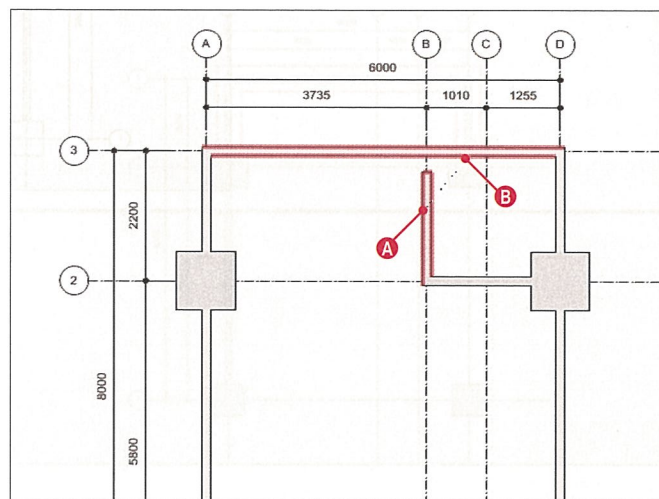
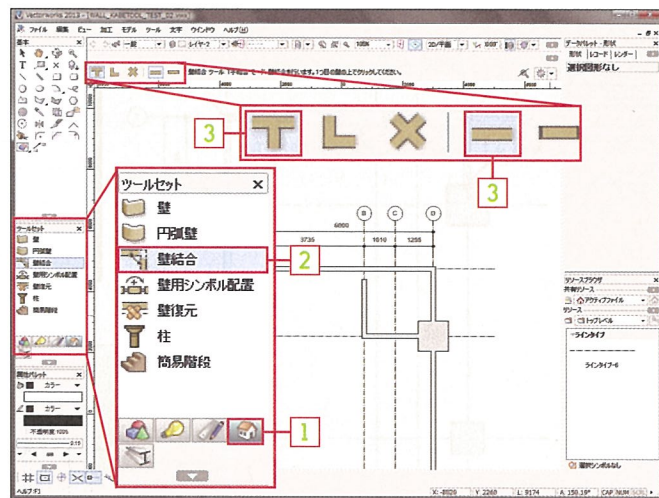
1 ツールセットパレットの[壁]をクリックする。

Vectorworksデザインシリーズでは、[壁]ではなく[建物]という名称になります。

2 [壁結合ツール]をクリックする。
3 ツールバーの[T字結合モード]と[包絡結合モード]をクリックする。

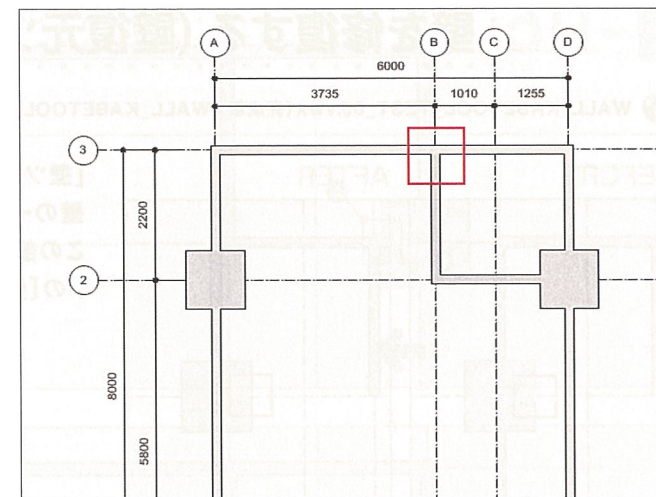
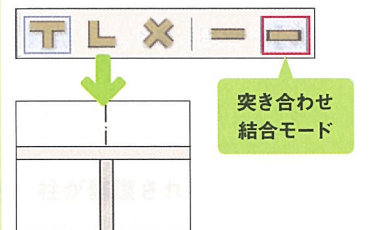
4 結合する壁Aにカーソルを合わせる。壁が強調表示されるので、クリックして選択する。

5 結合するもう一方の壁Bにカーソルを合わせる。壁が強調表示されるので、クリックして選択する。



6 壁同士が包絡結合される(接合部の境界線が自動的に消去される)。

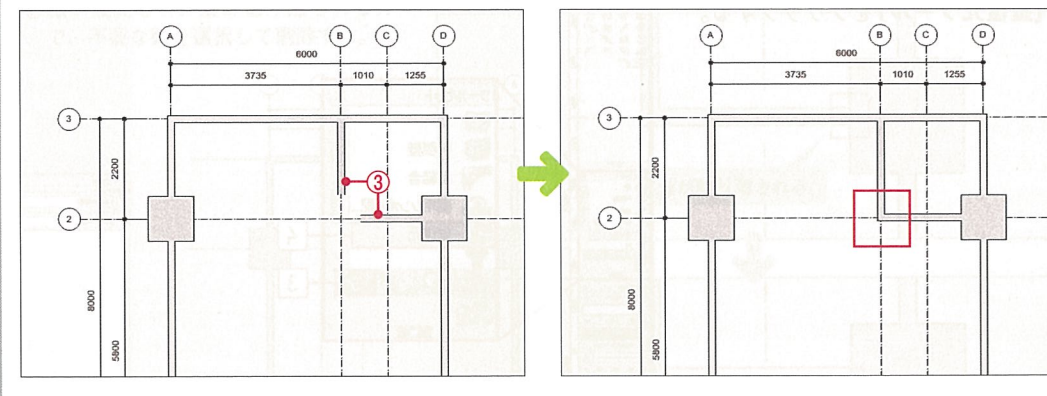
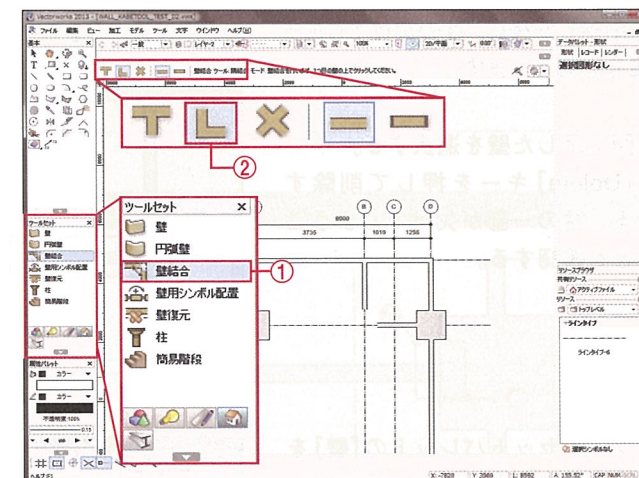
包絡結合ではなく突き合わせ結合にしたい場合は、手順3で[包絡結合モード]の代わりに[突き合わせ結合モード]をクリックします。



ポイント 壁の端点同士を結合する

[壁ツール]で作成した壁の端点同士を結合するには、[壁結合ツール]の[隅結合モード]を選択します。手順は次のとおりです。

- ① ツールセットパレットで[壁結合ツール]を選択する。
- ② ツールバーの[隅結合モード]をクリックする。
- ③ 接合する壁をクリックして選択する。

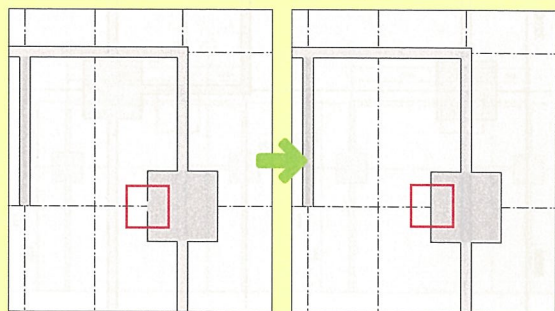


04-06 壁を修復する(壁復元ツール)

WALL_KABETOOL_TEST_03.vwx(完成版:WALL_KABETOOL_TEST_03_after.vwx)

BEFORE

AFTER

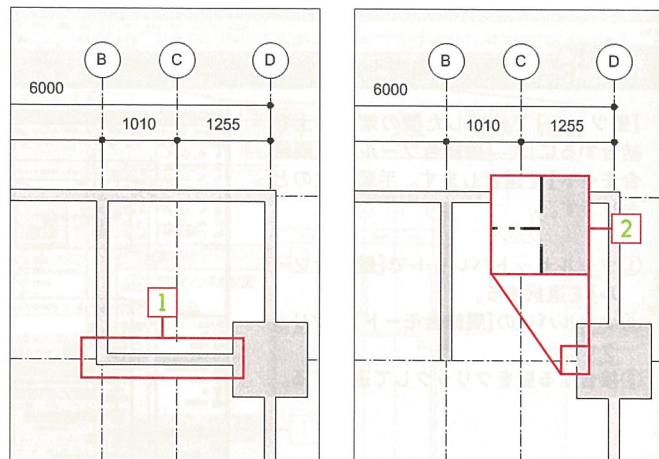


[壁ツール]で作成した壁を編集している間に、壁の一部の線が欠けてしまうことがあります。この部分を修復するには、ツールセットパレットの[壁復元ツール]を使用します。

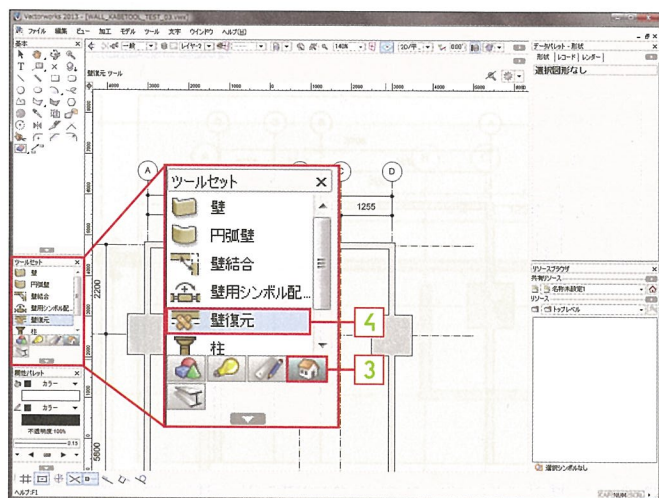
壁を削除してから線を修復する

壁を削除した後に、柱の欠けてしまった部分を修復します。

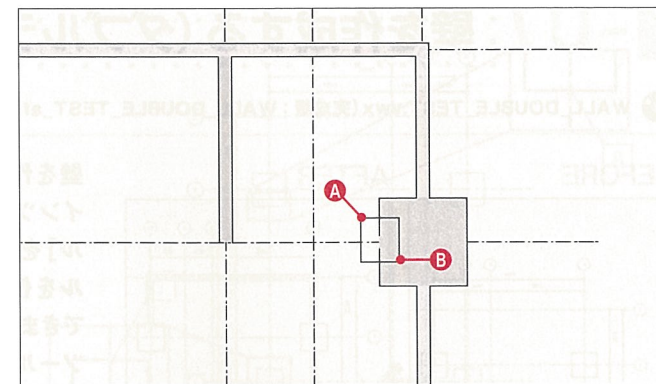
- 1 図に示した壁を選択する。
- 2 [Delete] キーを押して削除する。柱の一部が欠けてしまうことを確認する。



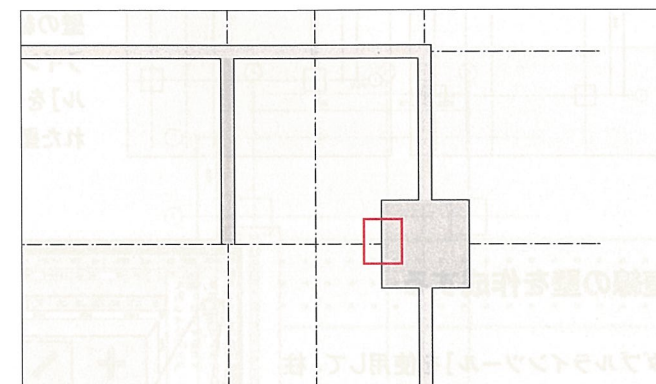
- 3 ツールセットパレットの[壁]をクリックする。
- 4 [壁復元ツール]をクリックする。



- 5 柱の欠けている部分を囲むように、点A、Bをクリックする。



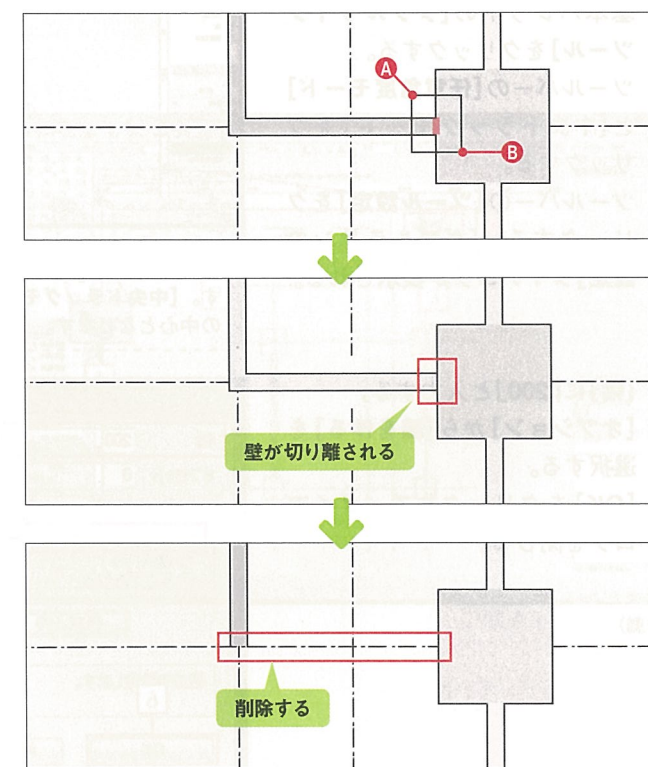
- 6 柱が修復される。



ポイント 線を復元してから壁を削除する

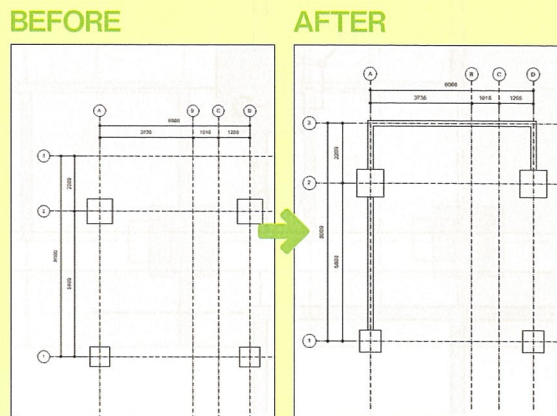
[壁復元ツール]で壁の接合部の線を復元して(壁を切り離して)から、壁を削除するという方法もあります。その場合は次のようにします。

- ① ツールセットパレットの[壁復元ツール]をクリックする。
- ② 線を復元する部分を囲むように、点A、Bをクリックする。
- ③ 線が復元され、壁が切り離されるので、不要な壁を選択して削除する。



04-07 壁を作成する(ダブルライン)

WALL_DOUBLE_TEST.vwx (完成版: WALL_DOUBLE_TEST_after.vwx)

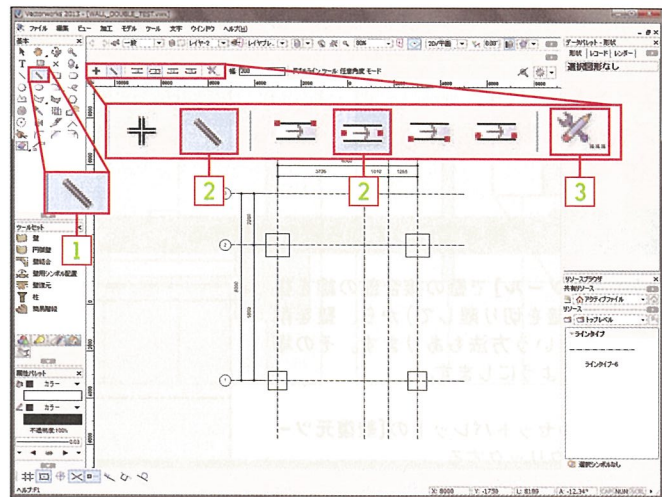


壁を作成するには、基本パレットの[ダブルラインツール]または[ダブルライン多角形ツール]を使用する方法もあります。これらのツールを使用すると、2本の平行線を簡単に作成できます。
 ツールセットパレットの[壁ツール](P.134を参照)でも壁オブジェクトを簡単に作成できますが、壁の線を細かく調整したい場合などは、[ダブルラインツール]または[ダブルライン多角形ツール]を使用して、線と面(または線のみ)で構成された壁を作成したほうがよいでしょう。

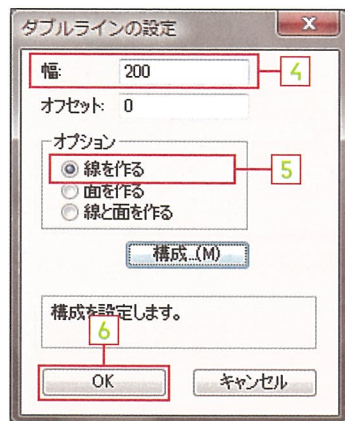
直線の壁を作成する

[ダブルラインツール]を使用して、柱と柱の間に厚み200mmの直線の壁を作成します。

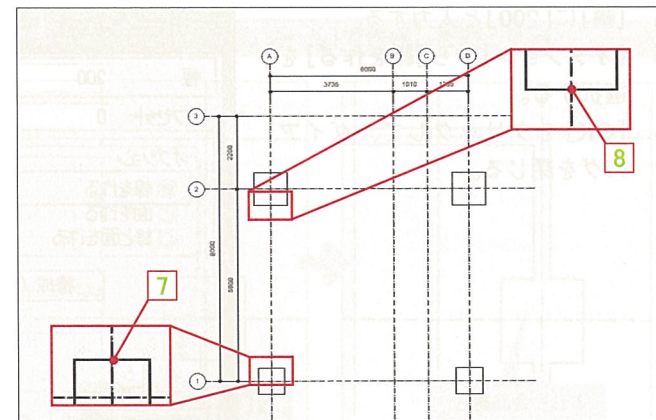
- 1 基本パレットの[ダブルラインツール]をクリックする。
- 2 ツールバーの[任意角度モード]と[中央ドラッグモード]をクリックする。
- 3 ツールバーの[ツール設定]をクリックする。[ダブルラインの設定]ダイアログが表示される。
- 4 [幅]に「200」と入力する。
- 5 [オプション]から[線を作る]を選択する。
- 6 [OK]をクリックして、ダイアログを閉じる。



[任意角度モード]では、自由な角度のダブルラインを作成できます。[中央ドラッグモード]では、指定した点がダブルラインの幅の中心となります。



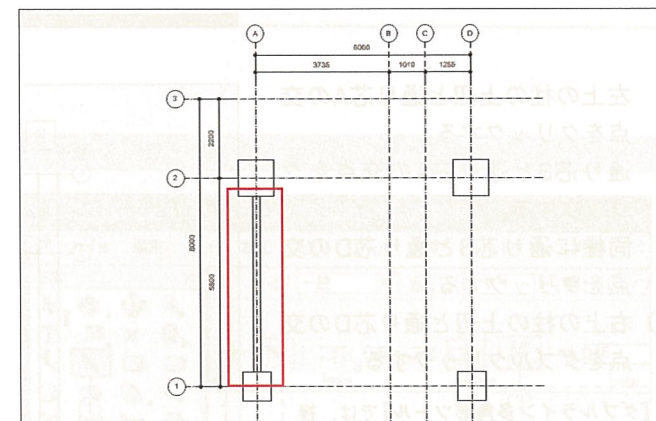
- 7 左下の柱の上辺と通り芯Aの交点をクリックする。
- 8 左上の柱の底辺と通り芯Aの交点をクリックする。



- 9 壁となるダブルラインが作成される。

手順5で[線を作る]を選択したため、面のない2本の線となります。[面を作る]を選択した場合は、面のある四角形が作成されます。[線と面を作る]を選択した場合は、独立した線と面が作成されます。

[ダブルラインツール]で作成した壁は、単純な線なので、自動的に包絡結合されません。結合するには、[トリミングツール]などを使用して接合部を処理する必要があります(P.99のポイントを参照)。



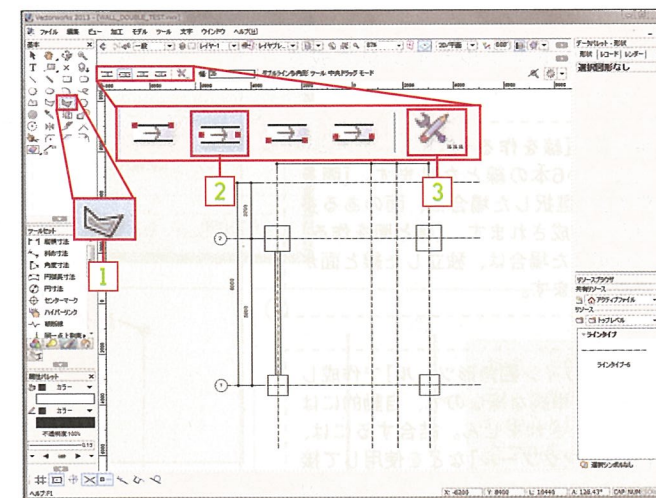
コの字型の壁を作成する

[ダブルライン多角形ツール]を使用して、厚み200mmのコの字型の壁を作成します。

- 1 基本パレットの[ダブルライン多角形ツール]をクリックする。
- 2 ツールバーの[中央ドラッグモード]をクリックする。

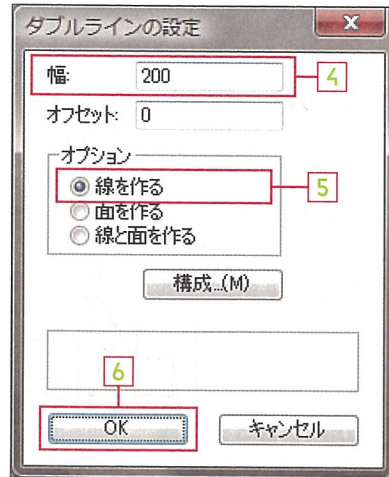
[任意角度モード]では、自由な角度のダブルラインを作成できます。[中央ドラッグモード]では、指定した点がダブルラインの幅の中心となります。

- 3 ツールバーの[ツール設定]をクリックする。[ダブルラインの設定]ダイアログが表示される。

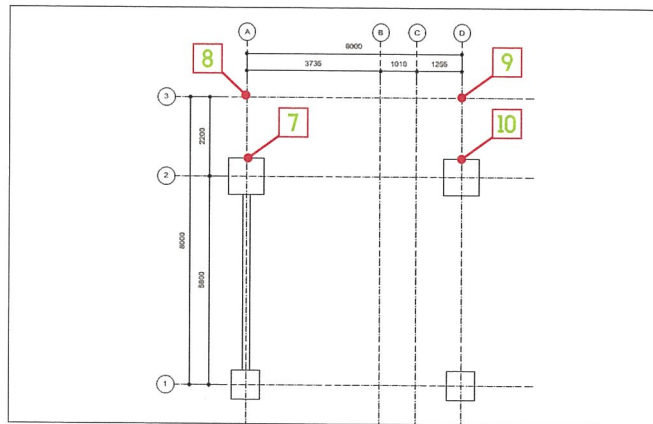


(続く)

- 4 [幅]に「200」と入力する。
- 5 [オプション]から[線を作る]を選択する。
- 6 [OK]をクリックして、ダイアログを閉じる。



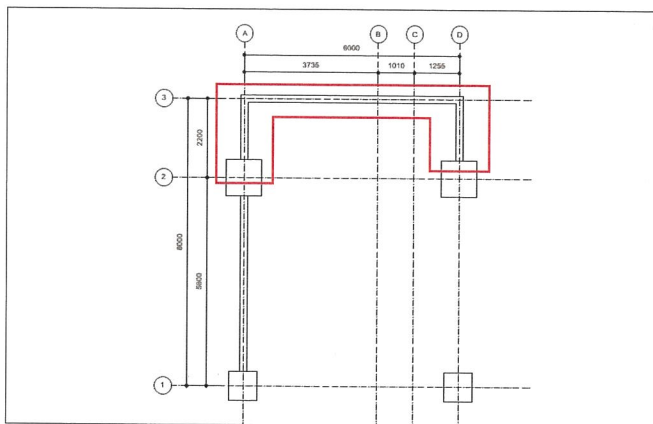
- 7 左上の柱の上辺と通り芯Aの交点をクリックする。
- 8 通り芯3と通り芯Aの交点をクリックする。
- 9 同様に通り芯3と通り芯Dの交点をクリックする。
- 10 右上の柱の上辺と通り芯Dの交点をダブルクリックする。



[ダブルライン多角形ツール]では、複数の点をクリックしていくことで、連続したダブルラインを作成できます。ダブルクリックすると、その点がダブルラインの終点となります。

- 11 壁となるダブルラインが作成される。

手順5で[線を作る]を選択したため、面のない6本の線となります。[面を作る]を選択した場合は、面のある多角形が作成されます。[線と面を作る]を選択した場合は、独立した線と面が作成されます。

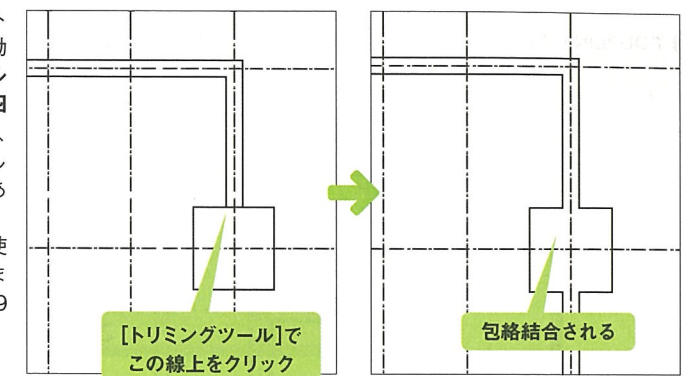


[ダブルライン四角形ツール]で作成した壁は、単純な線なので、自動的に包絡結合されません。結合するには、[トリミングツール]などを使用して接合部を処理する必要があります(P.99のポイントを参照)。

ポイント [ダブルラインツール]または[ダブルライン四角形ツール]で作成した壁の結合

[壁ツール]で作成した壁オブジェクトの場合は、壁や柱との接合部分で自動的に包絡結合が行われますが、[ダブルラインツール]または[ダブルライン四角形ツール]で作成した壁の場合には、[トリミングツール]などを使用して、手で接合部を処理する必要があります。

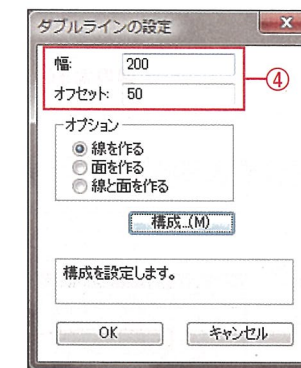
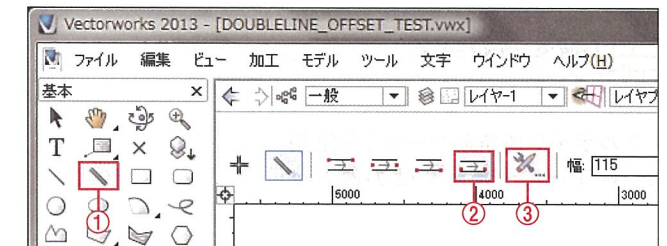
右の例では、[トリミングツール]を使用して壁と柱の接合部を処理しています([トリミングツール]についてはP.99のポイントを参照)。



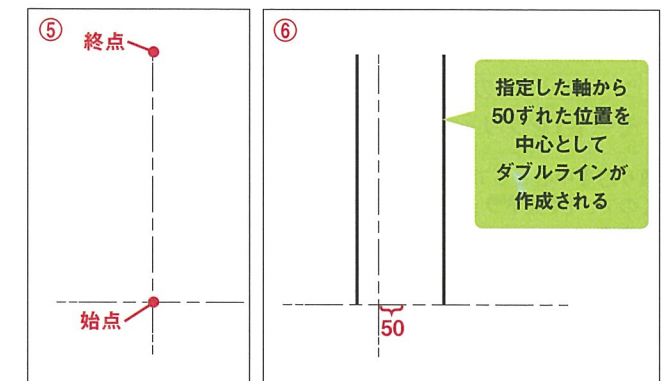
ポイント ダブルラインのオフセットモード

[ダブルラインツール]と[ダブルライン多角形ツール]の[オフセットモード]を使用すると、指定した軸から指定の距離だけずれた位置にダブルラインを作成できます。[オフセットモード]の使用例を次に示します。

- ①基本パレットの[ダブルラインツール]を選択。
- ②ツールバーの[オフセットモード]を選択。
- ③ツールバーの[ツール設定]をクリック。
- ④[ダブルラインの設定]ダイアログで[幅]に「200」、[オフセット]に「50」と入力。[OK]をクリック。
- ⑤ダブルラインの基準となる軸の始点と終点をクリックして指定。
- ⑥⑤で指定した軸から50離れた位置を幅の中心としてダブルラインが作成される。

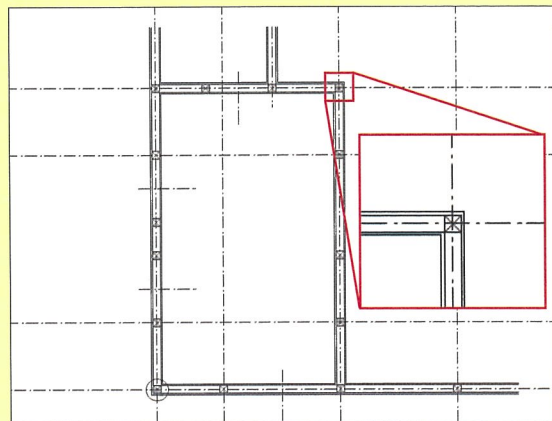


[オフセットモード]は[壁ツール]でも使用できます。



04-08 仕上げ線を含む壁を作成する(ダブルライン)

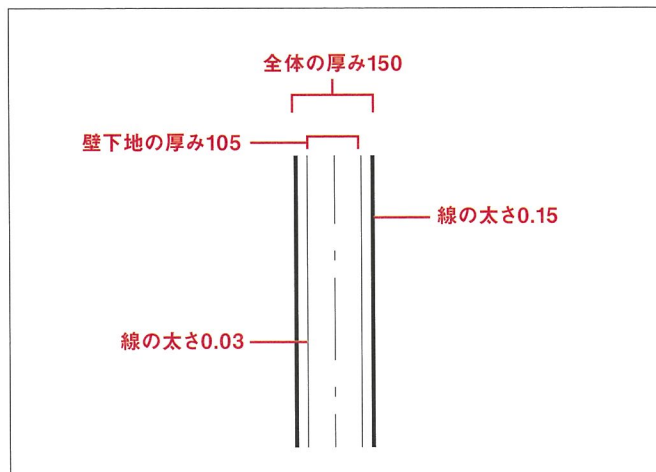
FOURLINE_TEST.vwx (完成版: FOURLINE_TEST_after.vwx)



[ダブルラインツール]と[ダブルライン多角形ツール]では、ダブルラインの構成要素を設定することで、2本以上の線をまとめて作成できます。構成要素となる線の色やラインタイプ(線種)なども設定できるため、この機能を利用して、仕上げ線を含む壁を一度の作業で描くことができます。

仕上げ線を含む壁を作成する

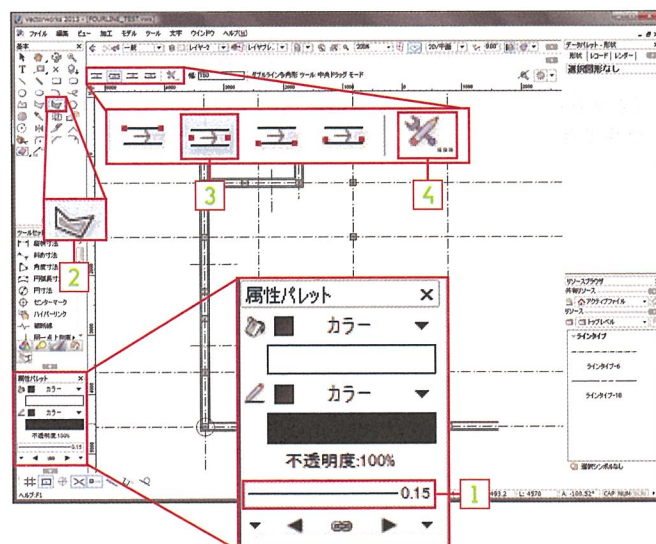
[ダブルライン多角形ツール]を使用して、仕上げを含めた全体の厚みが150、壁下地の厚みが105となる壁を作成します。外側の仕上げ線は太さ0.15、内側の下地線は太さ0.03とします。



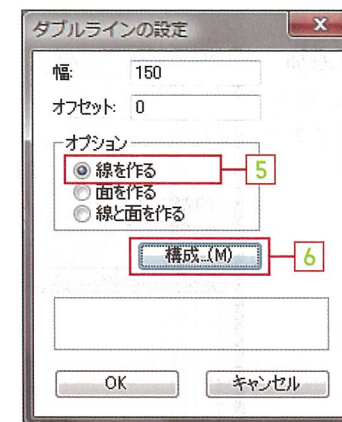
- 1 属性パレットの[線の太さ]で[0.15]が選択されていることを確認する。
- 2 基本パレットの[ダブルライン多角形ツール]をクリックする。
- 3 ツールバーの[中央ドラッグモード]をクリックする。

通り芯を中心としてダブルラインを描くので、[中央ドラッグモード]を選択します。

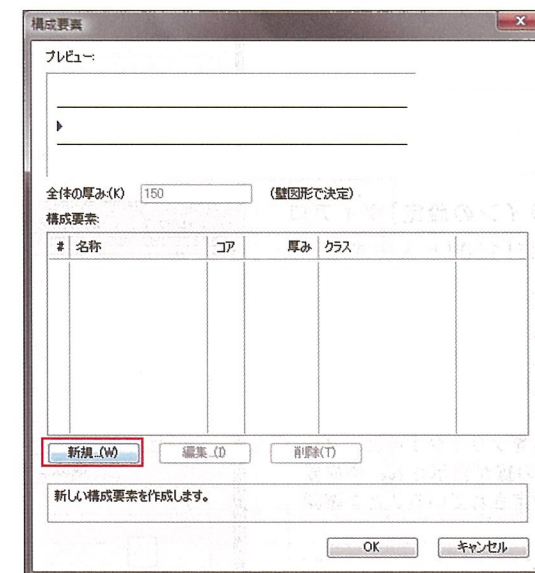
- 4 ツールバーの[ツール設定]をクリックする。[ダブルラインの設定]ダイアログが表示される。



- 5 [オプション]から[線を作る]を選択する。
- 6 [構成]をクリックする。[構成要素]ダイアログが表示される。

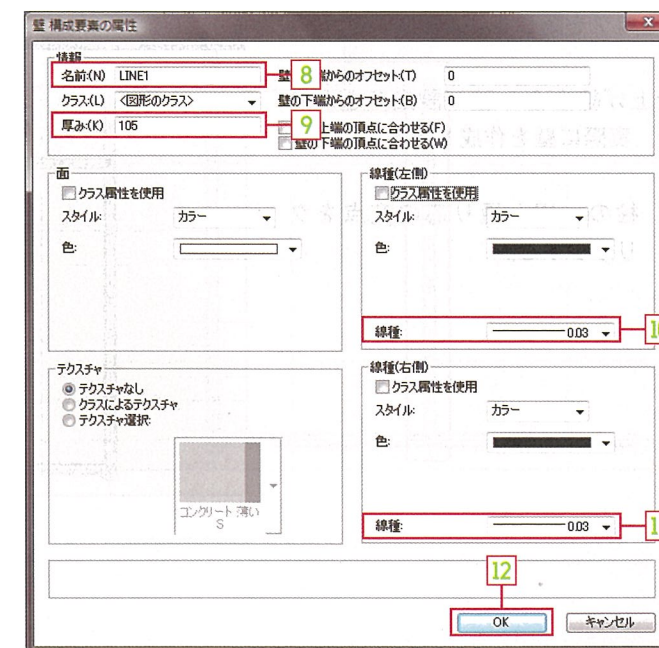


- 7 [新規]をクリックする。[壁構成要素の属性]ダイアログが表示される。



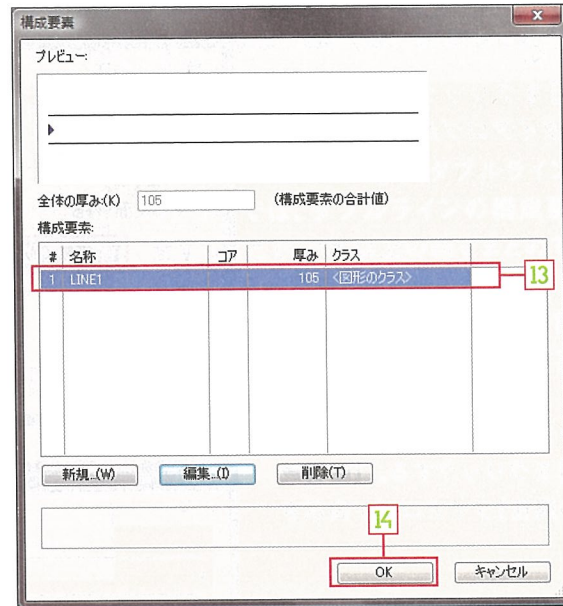
壁下地となる要素を定義します。

- 8 [情報]の[名前]に「LINE1」と入力する。
- 9 [厚み]に「105」と入力する。
- 10 [線種(左側)]の[線種]から「0.03」を選択する。
- 11 [線種(右側)]の[線種]から「0.03」を選択する。
- 12 [OK]をクリックして、ダイアログを閉じる。



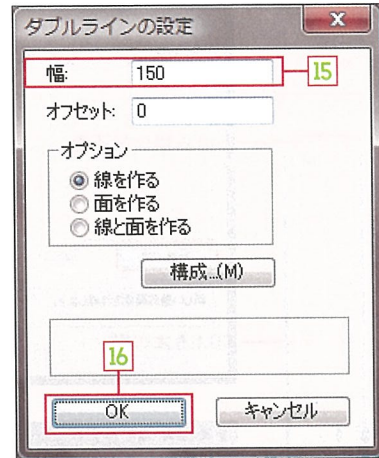
(続く)

- 13 [構成要素] ダイアログの[構成要素] リストに[LINE1]が追加されていることを確認する。
- 14 [OK]をクリックして、ダイアログを閉じる。



- 15 [ダブルラインの設定] ダイアログの[幅]に「150」と入力する。

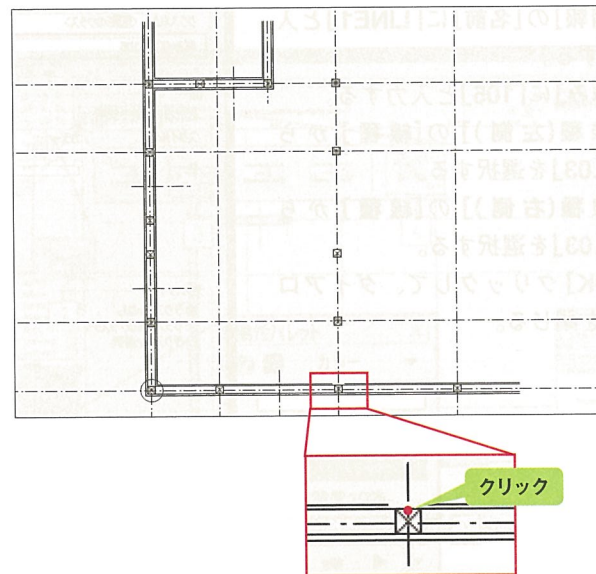
この値が、仕上げを含めた壁全体の厚みとなります。手順12の時点ではプレビューに2本の線しか表示されませんが、[ダブルラインの設定]ダイアログで壁全体の厚みを「150」に設定してから[構成]をクリックすると、プレビューに4本の線が表示され、構成要素が正しく設定されていることを確認できます。



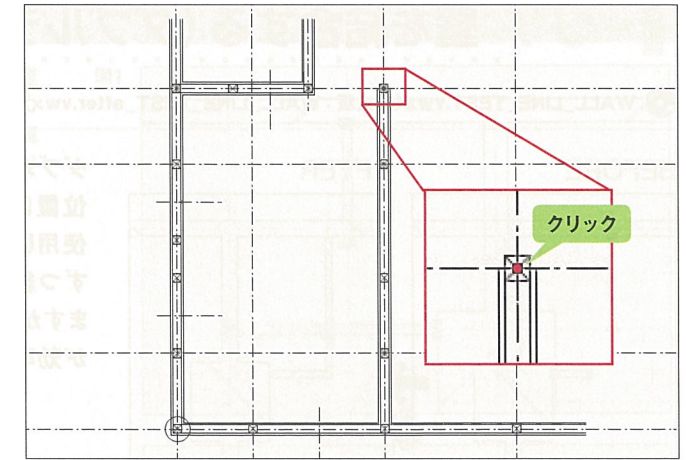
- 16 [OK]をクリックして、ダイアログを閉じる。

仕上げ線を含む壁が設定できたので、実際に壁を作成します。

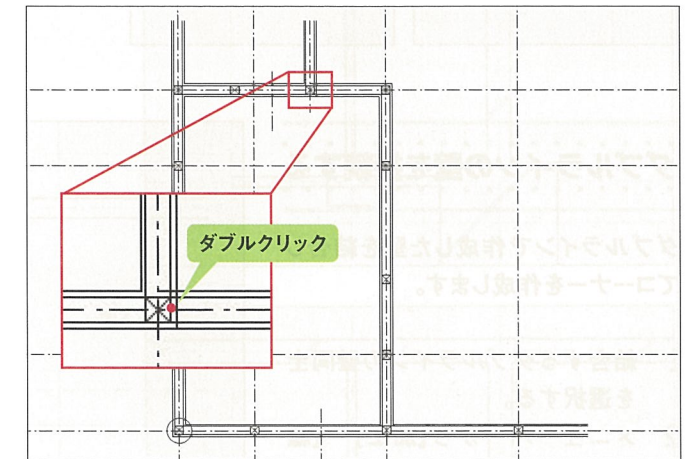
- 17 柱の上辺と通り芯の交点をクリックする。



- 18 手順17でクリックした点と同じ通り芯上の一番上にある柱の中心をクリックする。



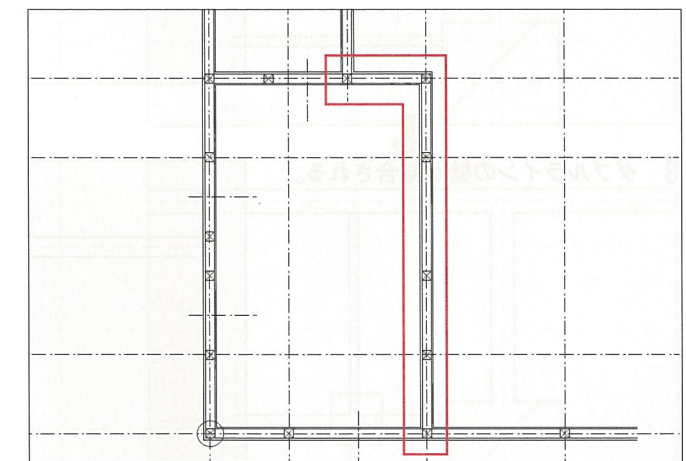
- 19 左側の柱の右辺と通り芯の交点をダブルクリックして、ダブルラインの作成を終了する。



- 20 4本の線から成る、仕上げ線を含んだ壁が作成される。

図は、柱の接合部を[トリミングツール]などで処理した後のものです。

[壁ツール]でも、ツールバーの[ツール設定]から同様にして壁の構成要素を定義できます。

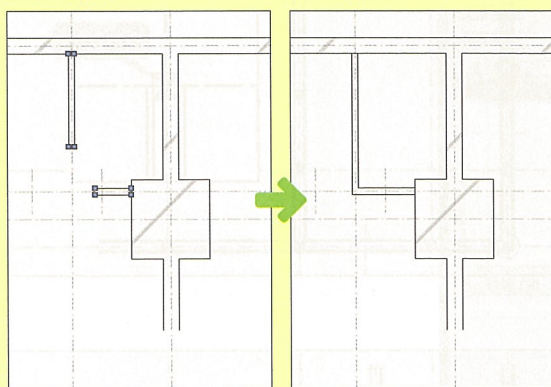


04-09 壁を結合する(ダブルライン)

WALL_LINE_TEST.vwx(完成版: WALL_LINE_TEST_after.vwx)

BEFORE

AFTER

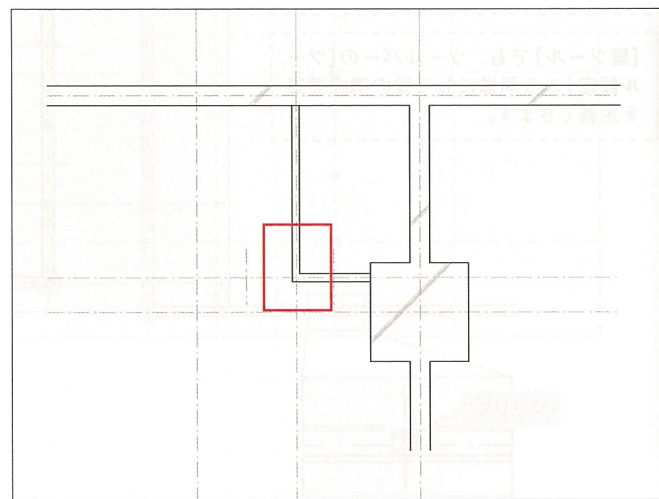
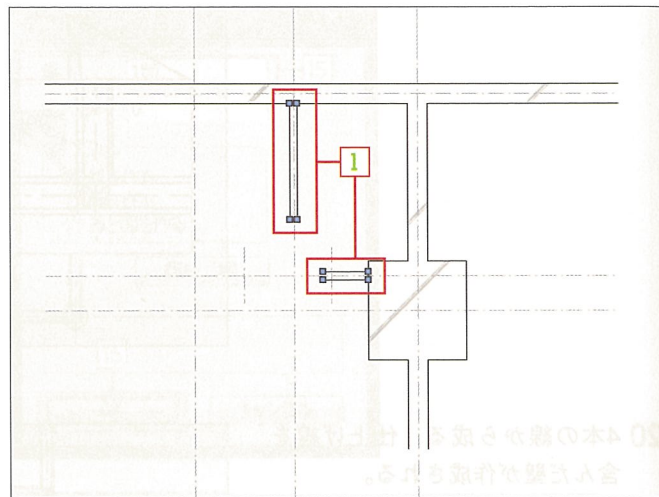


ダブルラインで作成した2つの壁が交差する位置にある場合は、[線分を結合]コマンドを使用して壁同士を結合できます。壁の線を1本ずつ結合してトリミングするという方法もありますが、[線分を結合]コマンドを使用したほうが効率的です。

ダブルラインの壁を接続する

ダブルラインで作成した壁を結合してコーナーを作成します。

- 1 結合するダブルラインの壁同士を選択する。
- 2 メニューバーから[加工]—[線分を結合]—[結合(直)]を選択する。
- 3 ダブルラインの壁が結合される。



ポイント ダブルラインの包絡結合

ダブルラインの壁が図1、図2のような位置関係にある場合も、P.150の手順と同様にして結合できます。このとき、結合部の境界線は自動的に消去され、包絡結合になります。

図1

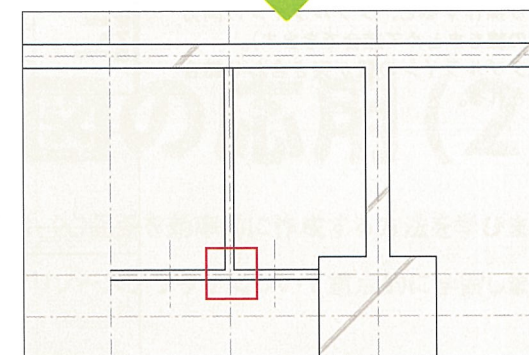
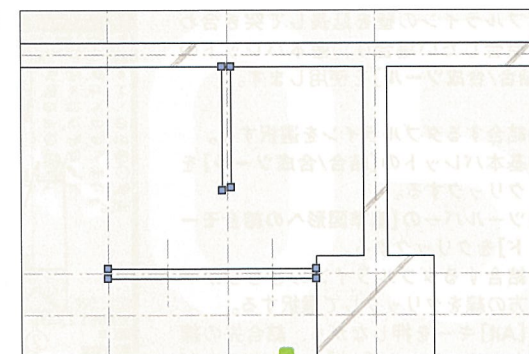
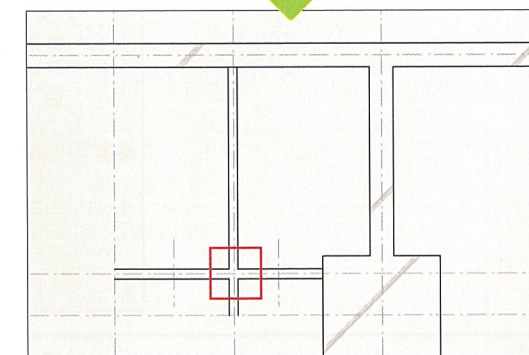
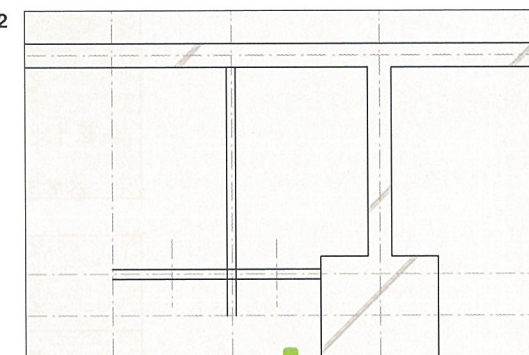


図2



ポイント ダブルラインの突き合わせ結合

ダブルラインの壁を延長して突き合わせ結合したい場合は、基本パレットの【結合/合成ツール】を使用します。

- ① 結合するダブルラインを選択する。
- ② 基本パレットの【結合/合成ツール】をクリックする。
- ③ ツールバーの【基準図形への結合モード】をクリックする。
- ④ 結合するダブルラインのどちらか一方の線をクリックして選択する。
- ⑤ 【Alt】キーを押しながら、結合先の線をクリックする(【Alt】キーを押しながら操作すると、ダブルラインの両方の線をまとめて結合できます)。
- ⑥ ダブルラインの壁が突き合わせ結合される。

